

葵

ちゃんが一番



JIBAKU-SYSTEM

B.A.B.E.L

The strongest children in the world.

Though it gets him, they don't choose a means.





葵

ちやんが一番

みるがき

かつてないほどの攻勢にさらされ陥落寸面の
山口防衛線状態な涼樹天晴（すずきあまはる）です。

5121 助けて〜っ！！

この本がコミケに間に合ったのは印刷所のトム出版様の
中の人の根性と気力のおかげです（＾＾）

十二月に入ってからの新型インフルエンザに感染して
なんかやで五日間程度無駄にしたのが痛かった
これも要因なんだけど一番の原因はもっとはやく
原稿やれば良かっただけなのかなんとも（＾＾）

本当に今回は、かつてないほど時間的にやばかったです。
入稿したのも最終締切り一時間前でした

なにせよ無事に葵ちゃん本が出せて良かったです。
まあ本当は夏に出す予定だったから遅れまくりなのですが

あ〜もう、やはり葵が一番自分的にいいな〜

可愛いのに描きやすいし（＾＾）

ただ本編の出番が少ないのが、なんともせつない（＾＾；）
とま〜こんな感じです。



皆本はん…

うちのこは
準備できてるで…

葵!

女

あは



ふあ

ん...

ぐちゃ

ひあ

あ

皆本...は...ん

もっと...
ゆっく...り...激し...

す...ぎ...

ひい

壊れ...る

あう

ぐちゃ

ぐちゃ

ぐちゃ



悪い…
ゆっくり…な

はー
はー

あー



すまん葵それ無理
こんな最高の感触を
ゆっくり味わうなんて
出来ない！

ひあ？

ひあひあ

はあ
ああ

あー

あー
はあ

あー

あー

あー
あー
あー

くっ…
もう…出る

ああっこら
葵、駄目
外に…
出さないと

必殺
蟹バサミ

ガッ

あは

すっ

出てる！

おっぱい

うちの子宮に…

皆本はんの精子が…
入ってきてる！

ビュッ

ビュッ

ビュッ





ふーゆー



ちゅぽん

ぽりっ

ひゃん



葵...

皆本はんうちは今日安全日だから中出ししても妊娠しないから大丈夫なんやで

ほんま皆本はんは性行為関係はお子様やな！

大嘘

そうなの？



そうやでー

だからな

今日は遠慮なく全部中出ししてもえーんやで嬉しいやろ

皆本はん
たくさん出したなー

たまってるのどちやう？
まあこんな美少女中学生が
相手ならわかるけどな

うちは最高やろ？

う…ああ…
とても気持ち
よかった



ふふん
なんや今日は素直やなー

いつもは照れてなかなか
答えてくれへんの

素直になるくらい
うちを犯したいん？





皆本はん…そないに
ペニスを立てさせて…

うちのここに…
そんなに突っ込みたいんか

くはあ

くわわ



葵〜!

きやー

カマン



葵…

なんせうちの穴は全部…
上も下も後ろも皆本はん専用やで



かまへんよ

式回戦目終了の図



はー

きゅう...

はー

はー

ぐろ ぐろ

あ

ん

ええんよ

それだけうちに
メロメロって
ことやろ?





眼鏡でポニーで
裸エプロンだと…

ゴクッ



あんな皆本はん…

もじ

もじ

ひん

ズキ
ズキ

これ以上したらうちの
ここ壊れてまうねん…



じゃーん

現役女子中学生の
裸エプロンやで



はい
ローション

ふおお

バッキン

バッチ
こーい!

アナルでしたる

んん

はあ

んん

き

わわわわ

き

あひい

あ・お・いー
お前は最高の中学生だ!



はう

ああ出てるお腹の
奥まで皆本はんの
精子がきてる！

クワッ
クワッ

だから...

もっと...
ゆっ...く...り

葵—！

クワッ
クワッ



あひい

おう

でちやう
内臓でちやう

ギョ

ひびひび

ひびい



くはあ

ゴポゴポ

皆本はん…激しすぎや…
うちの肛門くばくばやで…

はーはー



ゴポ

悪い…

なにか…
前にもこんな事が
あったような…

ほー



雑文となかがき

はい、やまなしおちなしのやおい本です。

最初は「MINAMOTO」の続きで中学生編に入ろうかなーと思って
ネームを途中までやったのですが最初の「AOI」とかぶる部分が多くて(；_；)
進めていたのですがなんかうまくいきませんでした。

でも野上葵ちゃんのエロシーンだけ描きたくてこうなりました。

自分的に皆本×葵が一番すわりが良い感じですね。

キャラ的にも一番好きなので、作業的には楽しかったのですが
作成に入ったのが12月にはいってからと遅くなったのが痛かった><
自業自得なんだけどねー…やり残した事がたくさん…

なのでもう一冊くらい葵本作るかも(=ω=)

それにしても何気にアナルセックスもの多いね^(*^*)

「あ、葵……な、なんて格好してるんだ？」

「お帰り、皆本はん、えへへ〜どうや？
なかなかええ感じやん？」

「いや、そ、それよりも……
何で葵そんな格好してるんだ？」

「ん〜？ なんとなく？」

「なんとなくでそんな格好するな！
今すぐ着替えろ！」

「え〜ええやん、別に……って、んー
もしかしてウチに興奮してるとか？」

「ぼっ！ パカ！ そんなわけあるか！」

「でも、皆本はんウチのことじっくり見てない？」
陰部が浮かび上がっている。

「そっ、そんなわけないだろ……」
そう言いつつも目を逸らさない。

ぷに

「ほんまに？ほんまに？」
クスクスと笑いながら

お尻を見せてつきだして見せる。
淫らに食い込んだ陰部。

「ほらほら、どない？色っぽくない？」

「あっ、ああ…じゃなくて！
そう言うことは辞めろ！」

「え～せっかく着たのに？
光一はんこそ
むらむらしてへん？」

「あっ、あのな…」
甘い言葉と
小悪魔的な動きで誘う。

「ほら、今やったら
レオタード着た美少女と
H出来るねんで？」

「ええやん、あの二人もおらへんし
今日は思い切りできるんやで？」

「そ、そう言っても…」

「ウチの前にも後にも、好きなだけ
はめられるって言うのになぁ…」

「……………」

「み、皆本はん…
なんか、目が据わってて
顔が怖いんやけど…」

「あ、葵…葵～！」
臨界点を迎えた皆本

「きゃあぁ！」



「あうう！光—はん！あ！あ！あ！奥まできて…る！」

「んんっくっ！ ああっふっふと…あいかわらず…お、おっき…」

「ウチのあそこが広がって…あっ！ あああ！」

「んっ！ こ、こすれてる！
うちなあそこ！ あああ！ あつい！ すご！」

「こ、コラ、乳首かむな！ もう少しやさしゅう……あっんっ！」



「んんっくっ！ いい、葵のあそこはきついな……」
そう言って、腰を振った。
ずんずんと淫らな音が響く——

「そ…そうか？ き、気持ちええか？」

「ああ、いいよ。熱くて、締め付けも……一番良い」
互いの言葉が広がった——

ゴホ

「ああっ、はっ! はああ!
んくっ! も、もうで……でる」

「みっ、皆本はん、出るって中に?」

どろどろ

「とっ! とまらない! い、いくぞ?」

「あっ、はっ! いいっ!
当たって、奥に当たって……
くっ! ええよ、だして! 中に、中にいい!」

「んっ! くふうう……」

びん

びん

ム

「はあ、はあ、はあ……な、中に出てる……」

ウチの中に皆本はんの精子が……

んっ、相変わらず粘り着いて、濃いわあ……」

「ほら、ウチのあそこ見て？」

「粘り着いてるのが見えるやろ？」
そう言って、陰部を広げてみせる。

白濁とした精液がドロリと
へばりつくようにして陰部から滴る。

「ほら、まだ、ウチは大丈夫やで…
光一はんの精子ドロドロしてるわ」

葵は誘うように自らの股を開いた。

「あっ、また元気になってきてるな
もう一回、する？」

「ウチは、ええよ……」

「……」

出したばかりだというのにいきり立つ怒張。
ピンピンと空を突くように上向きになっている。

「ほら、なあ？
皆本はんのあそこもまたぐんぐん大きくなってる」

ひびひび

「えっ? なに、今度はお尻でって…
光一はんは、ほんまにアナルが好きやな?」

「う…嫌かな…」

くぱあ

「嫌やないけどな、そっちやと
妊娠の心配がないからやの?」

「さんざんうちの子宮に
精子出しといて今更やで?」

「そういう訳では…」

「まあ、ウチはええよ
そのかわり、今日はウチだけを見て…ウチだけを可愛がってな…」

葵の言葉に従って身を乗り出す。
そして、ゆっくりと菊座に指を当てこすった。

「あっ！ んっ！ ふうう……」
甘い吐息が広がってゆく。
眼前にある菊の花、そっと舌を当てる。

「んっ、あっ、お、お尻舐められてる……」

「ふっ！ ふあ！ んんうっ！ くっ！」
ピチャピチャと淫らな音が広がると同時に葵は身をくねらせた。

「はぁ、お、お尻の穴……熱い……んっ、ふうっ」ひぐひぐとまるで生物のように蠢く穴。
びたりとあてがう——

「あっ！ くっ！ くらうう……、こ、も、もう少しゆっくり、くっ！」
グイグイと押し当てられ、ねじ込まれてゆく。

「あっ！ くらうううっ！」
苦しそうに唇を噛みしめ、堪える。

「ふあっ！ ひ、ひろがる！」

「キツイか？」

「だ、だいたいじょうぶ……あぁっ！ はぁあ！」むき出しの陰部。スジと広がった淫花——

「はっ！ はぐ！ か、硬くて……はぁあ！ あぁっ！ あぁあぁあぁっ！」葵の声が、こだました。

「ね、ねじこんでる……いっ！ くぶうう！ う、ウチのおしり！ ウチのお尻の穴が広がって……」

「あっ！ くふうっ！ す、すごい…。根本から締め付けられる」

「ええよ！ はっ！ はああ！ もっと、もっとウチのお尻突いて！ おしり！ お尻の穴ああ！」
皆本の腰が前後するたびに、拡張され、まるで吸盤のように吸い付いて、離そうとしない。

「あっ！ ぐっ！ くふう！ ああつ、いいっ！ いい！ お尻…」抜けそうになる一瞬、外側に引っ張られる。腰のペースが速まった。

「お！ お尻が熱い！ うち！ ウチもうだめえ！」捜査権だと気だ、葵の肛門が収縮して――

「あっ！ ぐっ！ くふうう！」

「くっ！ で、でる！ 出すぞ！」

「はあっ！ はああ！ ええよ！ 出して出してえええ！」
どくっ！ どくうう！
葵の言葉に従うように放出される精子。

「はあ、あ、ウチのお尻の中でどくどく言うてる…」 「はあはあはあはあ……」

「あっ、ウチのお尻の穴から、光二はんの精子がたれてきてる…」
ぐったりとする皆本――「連続でするのはきつかったん？」
「あ、いや……」葵の言葉に正気に戻る皆本――

「レオタードぐしょぐしょやな…」 「あっ、うん」

「今度は、汚さんようにしてや？」 「うん…」
少し自己嫌悪気味に顔を赤く皆本を見て、葵は笑いながら――

「あと、レオタードの代金ちゃんと払ってや？」

